

## 平成21年度 病害虫発生予察注意報 第1号

病害虫名： いもち病

対象作物： イネ

### 1. 注意報の内容

- (1) 対象地域 普通期水稻栽培地域
- (2) 作物名 イネ
- (3) 病害虫名 いもち病
- (4) 発生量 平野部：やや多 中山間部：多

### 2. 注意報発令の根拠

- (1) 7月中旬に実施した調査では、都内各地におけるイネいもち病の発生は平年並であったが、7月末の調査では、西多摩地区および南多摩地区の中山間部における水田で本病の発生が多発しているのが確認された。発生の激しい水田では、いわゆるズリコミ症状も認められた。また、平野部においても平年よりやや多く発生していた。いずれの水田においても、葉に形成された病斑の多くは丸みを帯びた紡錘形を呈した急性型であり、7月下旬に発病が急速に拡大したものと考えられる。
- (2) 気象庁が発表した向こう1ヶ月の気象予報（7月31日発表）では、平均気温が低い確率が40%、降水量は多い確率が30%、平年並の確率が40%、日照時間は少ない確率および平年並の確率がともに40%で、発病に好適な条件が続くことが予想される。

### 3. 防除対策

- (1) 補植用の置苗は本病に感染しやすく、本田への伝染源となるため、早急に撤去する。
- (2) 葉いもちや穂いもちの伝染源となるので、発生水田では薬剤防除を早急を実施する。また、穂ばらみ期と出穂期に必ず防除を実施する。
- (3) 現在発生の認められない水田においても、今後の気象条件により発生する可能性が高いため、水田を巡回して発病を監視し、防除適期を逃さないように努める。
- (4) 窒素過多は本病の発生を助長するので、多発している水田では追肥を控える。
- (5) 薬剤防除は表1を参照して実施する。
- (6) 今後の発生予察情報及び気象情報に注意する。

表1 本病に対する主な登録薬剤

薬 剤 名	使用基準 (収穫前日数/回数)	施用量または使用倍率
カスミン液剤	14/5	1000 倍 (但し、200 倍希釈散布は 3 回以内)
フジワン乳剤	45/1	1000 倍
アミスターエイト	14/3	1000 ~ 1500 倍
ブラシンフロアブル	21/2	1000 倍
クタジン P 粉剤 30DL	*a/3	3 ~ 4kg (10/a)
嵐粒剤	*b/1	2 ~ 3kg (10/a)
クタジン P 粒剤	*a/2	3 ~ 5kg (10/a)
コラトップ粒剤 5	*c/2	3 ~ 4kg (10/a)
フジワン粒剤	*d/1	3 ~ 5kg (10/a)

粒剤および粉剤施用数日間は湛水状態を保ち、落水かけ流しはしない。

\*a: 葉いもちに対しては初発7日前～初発時、穂いもちに対しては出穂7～20日前。

\*b: 葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対して出穂25～5日前まで(但し収穫21日前まで)。

\*c: 葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対して出穂30～5日前まで。

\*d: 葉いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前(但し収穫30日前まで)。

.....  
 防除所ホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>  
 テレホンサービス042 (525) 8407  
 - 今後の予察情報にご注意下さい -  
 E-mailアドレス S0200303@section.metro.tokyo.jp